

自然な例文を求めて

——例文検討会議の現場から



中邑光男

生徒が『ジーニアス総合英語』の文法項目の説明を理解したとしても、その項目を英文の中で認識できないのなら、またその文法知識を使って英文を作れないなら、本物の文法力を身につけたとは言えない。総合英語において、例文は、生徒の文法知識を定着させる「かなめ」である。

『ジーニアス総合英語』の例文の多くはG5に基づいたものだ。しかし、G5の用例を日本人とネイティブスピーカーが徹底的に話し合い、必要に応じて、高校生の学習により役立つように変更したものもある。

『ジーニアス総合英語』の例文は全て、この話し合いを経て作り込んだものだが、本稿では、4つの表現を取り上げ、例文検討会議の様子をお届けする。なお、本稿の[JE]は日本人の編集者(Japanese Editor)を、[AE]はアメリカ人の編集者(American Editor)を指す。

■ learn to do と「～するようになる」

[JE]「第7章 不定詞」では learn to do を取り上げていますが、He **learned to like** the dog. (彼はその犬が好きになった。) という例文はどうでしょう。

[AE] この文には「最初彼はその犬が好きではなかったが、なんとか努力した結果、やっと好きだと言えるようになった」というニュアンスがあります。「彼はその犬が好きになった。」という和訳はそのニュアンスを十分に表していますか。

[JE] 十分とは言えないかもしれません。この文はG5の用例です。G5では語義が詳しく、他の用例

もあるためにこの文のニュアンスがわかるのですが、『ジーニアス総合英語』ではニュアンスを丁寧に説明し、例文も高校生にとってポイントがより分かりやすいものに代えましょう。learn to do の意味を、to の後ろの動詞を状態動詞と動作動詞との場合に分け、例えば、状態動詞なら「(努力して [経験を積んで]) ～するようになる」と示すのがいいと思います。

[AE] では、例文は He has **learned to be patient**. (彼は忍耐強くなった。) でどうでしょう。

[JE] それはいいですね。彼には忍耐強くならなければならない事情があり、がんばってそうになった、という意味ですね。

■ as soon as possible と as soon as S can

[JE]「第10章 比較」の〈as+原級+as possible [S can]〉の例文候補は、He put forward a proposal **as soon as possible**. (彼はできるだけ早く提案を提出した。) です。

[AE] この文で as soon as possible は使えません。as soon as possible は現在や過去から見た未来のことに使うからです。過去については as soon as S could や as soon as was possible と言います。

[JE] G5の用例を見ると、as soon as possible は「至急」という意味、as soon as S can は「できるだけ早く」の意味で、必ずしも同じ意味を表すとは言えないようです。例文を変更しましょう。

[AE] John parked **as far as possible** from the road. (ジョンは道路からできるだけ離れた所に車を停めた。) はどうでしょう。... as far as he could

from the road. もほぼ同じ意味を表します。

JE いいですね。それを例文にしましょう。ただし、今日話し合った as soon as possible と as soon as S can の意味の違いは非常に重要です。「注意」としてその点を明記したいと思います。

■ What is the matter with you? と「どうしたのですか。」

JE 「第19章 前置詞」では、with が持つ「関連」の意味を What's the matter **with** you? (どうしたのですか。) という定番の表現で示したいと思っています。with you は「あなたに関して」と訳すことができるので、生徒にも「関連」の意味だと分かりやすいでしょう。

AE 賛成です。ただし、with you があるとないとでは、ニュアンスの違いがあることにも触れるべきだと思います。

JE 確かにこの文では with you がないことが多いですね。昨夜テレビでアガサ・クリスティの *Curtain* を見たのですが、“What's the matter?” と言っていました。with you はつけていませんでした。

AE What's the matter with you? と言うと、ふつう、話し手がイライラして、「どうかしたの。」「何考えてるの。」と言っている響きがあります。

JE 反対に、話し手が聞き手への気遣いを示すために、with you をつけることもありますね。イライラして言う場合のほうが多いと思いますが。

この表現は教科書などでもよく出てくるので、with you のニュアンスを詳しく説明しましょう。例文を What's the matter (**with** you)? とし、「with you をつけると話し手のいらだちを表すのがふつうだが、時に気遣いを表すこともある」と書き添えることにします。

■ his willingness to work と he is willing to work

JE 「第24章 名詞構文・無生物主語」には

「〈SVC〉の内容を表す〈所有格＋名詞〉」というポイントがあります。これの例文候補として He has **shown his willingness to work** with us. が挙がっています。この文が He has shown that he is willing to work with us. とほぼ同じ意味を表すと説明するわけです。

AE でもその2文のニュアンスは少し違うと思います。

JE そのニュアンスの違いはどこから生じるのでしょうか。

AE willingness と willing の違いからだと思います。show his willingness to work は、彼の働く意思がある程度強いことを表していますが、He has shown that he is willing to work with us. では彼の意思がそれほど強くないように聞こえます。

JE *LDOCE* は willingness を the state of being prepared to do something と定義し、willing を prepared to do something, or having no reason to not want to do it と定義しています。willing の定義の後半を見ると、確かに willingness のほうがしっかりとした意思を表すように見えます。これが名詞と形容詞の一般的な違いを表しているのか、それとも show willingness というコロケーションのためなのか、興味深いですね。

日本人が英文の書き換えを考える時に、このようなニュアンスの違いを考えるだけの余裕はないでしょうが、無批判に「書き換え公式」に従うことの危険性は意識するべきですね。

この文を、He showed **his eagerness to work**. (彼は働こうとする熱意を示した。) にしましょう。eager も eagerness も強い熱心さを表すので、He was eager to work の内容を his eagerness to work と表現できると思います。

AE 賛成です。

(なかむら みつお・関西大学教授)